摂津　大阪

近松が多くの作品を生み出したまち

（大阪府大阪市）

大阪城

大阪は古くから政治・文化の中心地として、歴史上大きな役割を果たしてきました。旧石器時代や縄文・弥生時代の遺跡、古代の難波宮跡をはじめ大坂城跡など、貴重な文化遺産が数多くみられます。特に豊臣秀吉が大坂城を築いて後は、「天下の台所」として繁栄しました。

大阪のシンボル大阪城。天正十一年（一五八三）、豊臣秀吉が全国統一の拠点として築城に着手、三年を費やして完成しました。大坂の陣で焼失、江戸時代に再建、その後部分的な

JR
大阪駅
北区
大阪環状線
都島区
露天神社
大長寺
1
城東区
蜆川跡
桜橋跡
大阪天満宮
造幣局
大川
大阪市役所
南天満公園
中之島公園
八軒屋船着場跡碑
大阪城
公　園
難波宮史跡公園
玉造稲荷神社
西区
中央区
308
東成区
近松の墓
JR
難波駅
竹本座跡
国立文楽劇場
近鉄奈良線・大阪線
生国魂神社
浄瑠璃神社
難波八阪神社
銀山寺
天王寺区
生野区
浪速区
青蓮寺
四天王寺
通天閣
超願寺
43
天王寺公園
近松の碑
26
西成区
南海
高野線
南海本線
大阪フィルハーモニー
会館
阿倍野区
安養寺
北区
都島区
中央区
浪速区
天王寺区
西成区

大阪市街　　大阪24区

焼失、修築を繰り返し、明治元年（一八六八）に火事により大部分を焼失し、昭和六年（一九三一）大阪市が天守閣を再建しました。平成七年（一九九五）から九年にかけて、市民の寄付により改修工事が行われ、美しく生まれ変わりました。大阪城公園は市民の憩いの場として、また国内外から多くの人が訪れ、賑いを見せています。

北区（きたく）・都島区（みやこじまく）

近松の最初の世話物『曽根崎心中』の舞台となった堂島新地。曽根崎、露天神社（つゆてんじんしゃ）、大阪天満宮など、大阪随一の繁華街にも文学碑や歴史の足跡が数多く残っています。露天神社は、『曽根崎心中』の上演以来お初天神として知られてきました。境内にはお初と徳兵衛の比翼塚（ひよくづか）（愛し合って死んだ男女を一緒

露天神社（お初天神）

に葬った塚）があります。

大阪といえば「水の都」。市内を縦横に走る川に架けられた橋の数は八百八橋ともいわれます。『心中天の網島』の道行では「名残の橋づくし」、いくつもの橋を渡って、小はると治兵衛は最期の地網島へたどり着きます。しかし道行の舞台となった蜆川は、明治四十二年（一九〇九）のキタの大火をきっかけに埋め立てられ、現在では碑が残っているだけです。また、二人が心中した大長寺には、小はると治兵衛の比翼塚があります。

大阪は水上交通が発達していました。南天満公園の対岸には八軒屋船着場があり、毎日舟や人の往来でたいへん賑っていました。野崎慈眼寺（野崎観音）への「野崎まいり」が人気で、八軒屋から船で大川をさかのぼり野崎まで行くコースと、川に沿って堤を行くコースがあり、多くの人が参詣していました。『女殺油地獄』でも幕開きの場面に採り上げられています。

近松の墓（谷町）

竹本義太夫の墓（超願寺）

中央区（ちゅうおうく）・天王寺区（てんのうじく）

道頓堀。浪花の粋と人情に育まれた上方芸能、文楽・歌舞伎の古典から、漫才や落語、喜劇の笑いが街中にあふれます。江戸時代には竹本座、中座、角座、角丸座、豊竹座の五座が軒を連ね、連日賑いを見せていました。竹本座は、初代竹本義太夫（たけもとぎだゆう）が創設し、近松の作品を上演し賑いました。

昭和五十九年（一九八四）に開場した国立文楽劇場は、伝統芸能である文楽の殿堂ともいえる施設です。文楽のほか日本舞踊や邦楽の公演、また文楽の若手輩

出の養成事業も行っています。

古代からの歴史をつづる上町台地。谷町筋のビルの間にひっそりと近松の墓が立っているのをご存知でしょうか。当初近松の妻の菩提寺である法妙寺境内にありましたが、お寺の移転に伴い現在のところに移されました。

『曾根崎心中』にも登場する玉造稲荷神社は、大坂三十三所観音廻りの第十番札所として、古くから人々の信仰を集め賑っていました。この大坂三十三所観音廻りとは、西国三十三所になぞらえて大坂三十三か所の観音様を拝んでまわり、お札を納める巡礼で、当時の人々の間で広く流行していたものです。

「いくたまさん」と親しまれる生国魂神社は、『曾根崎心中』の発端の舞台となったところです。境内には浄瑠璃関係者や芸能愛好者の信仰を集める浄瑠璃神社があり、毎年春分の日には浄瑠璃祭が催されています。神社から南へのびる松屋町筋は、小さなお寺が立ち並ぶ寺町です。源聖寺坂、口縄坂などさらに奥にある寺院への坂道が幾筋もあり、都会の中にも風情が漂います。銀山寺には『心中宵庚申』の

お千世と半兵衛の比翼塚が建てられています。

『曾根崎心中』が大当たりしたのは近松が五十歳（数え年で五十一歳）のときです。そのころは京都に住み、もっぱら歌舞伎作者として活躍していました。その後浄瑠璃作者として生きていく決心を固め、宝永三年（一七〇六）近松が五十三歳（数え年で五十四歳）のとき、大坂に居を移します。歌舞伎の作品はその多くが役者坂田藤十郎のために書かれたものでした。

浄瑠璃の興行は、太夫（語り）、作者、座本（経営者）が一体となって行われます。浄瑠璃の歴史の中で太夫の代表的人物が竹本義太夫であり、座本は竹田出雲、作者はもちろん近松門左衛門と言えるでしょう。青蓮寺には竹田出雲の墓が、超願寺には竹本義太夫の墓があります。

お千世・半兵衛の比翼塚（銀山寺）

浪速区・西成区

新世界のシンボルタワー通天閣。明治四十五年（一九一二）にパリのエッフェル塔を模して建造され、当時は東洋一の高さを誇りました。「天に通じる高い建物」というのが名前の由来だそうです。その通天閣から北西へ向かうと、難波八阪神社があります。この神社で毎年一月の第三日曜日に綱引き神事が行われています。参加者が八頭八尾の八岐大蛇の形に縄をより合わせ、境内でその年の恵方（干支によって定められるめでたい方角）に引き合います。その後綱を担ぎ神社の周囲を巡行します。享保四年（一七一九）初演の浄瑠璃『平家女護島』にこの神事が登場することから、かなり古くから神事が行われていたとされています。

おさんの墓（安養寺）

一六世紀ごろから堺の発展とともに拓(ひら)け、天下茶屋(てんがちゃや)跡などの旧跡が残る西成区には、日本最大級のオーケストラ練習場である「大阪フィルハーモニー会館」があり、大阪フィルハーモニー交響楽団の活動拠点となっています。

西成警察署の東、商店街の奥まったところに松乃木大明神(まつのきだいみょうじん)があります。ここには近松門左衛門の大きな碑が建っています。高さおよそ二メートル余の碑で、「平安堂近松巣林子信盛碑」と記されています。以前は天王寺公園内にありましたが、明治三十四年、第五回内国勧業博覧会（国内物産博覧会）開催の折、現在地に移されたそうです。この碑の隣には、三味線の胴に張る猫の供養のため、遊芸関係者の拠金で建てられた猫塚があります。

ここから少し南に行くと、天下茶屋公園があり、そのすぐ目の前には安養寺(あんようじ)があります。安養寺には『心中天の網島』で夫治兵衛に貞節を尽くした妻として有名なおさんの墓があります。